

目指せるだけの十分な順応はできず、目標をK7 Westに変更した。増本・佐藤は29日に壁の基部までの荷揚げを行なう。

☆ **Beatrice 東壁 The Excellent Adventure 第2登、フリー初登 600m 5.13 a**

2017年8月1～9日 増本亮・佐藤裕介

ベアトリス(5,800m)東壁には、現在3本のルートが拓かれており、The Excellent Adventure(750m, ED+A3+: 初登時のグレーディング)は、1997年イギリス3人パーティーによって初登された、東壁中央を走るクラックを辿るライン。もともとは新ルートを登るつもりでこのラインに取り付いたが、1ピッチ登ったところでアンカーを発見。結局そのまま登ることとなり、最終的にはほぼ同ルートのフリー化となった。600m以上に渡ってクラックが続く素晴らしいルートで、ルート上にあるボルトは終了点のアンカーのみ。ルートは主に3つのパートに分けられ、逆層ハング越えから雪田までの下部120m。特に傾斜の強い5～11ピッチ目の中間部はフリー化の際も核心となり、5.12台5ピッチ、核心ピッチには5.13 aを付けた。上部6ピッチは傾斜が緩まり概ね快適なハンドクラックが稜線まで続いている。更にリッジ上のクライミング2ピッチと雪稜を経てピークに達する。ここまで充実したピッチが連続するヒマラヤビックウォールは、非常に珍しいだろう。

取り付きまでの荷揚げをして2日間のレスト後、BCを出発。9日間の登攀。壁中6泊。4本のロープを持参しカプセルスタイルでの登攀となった。

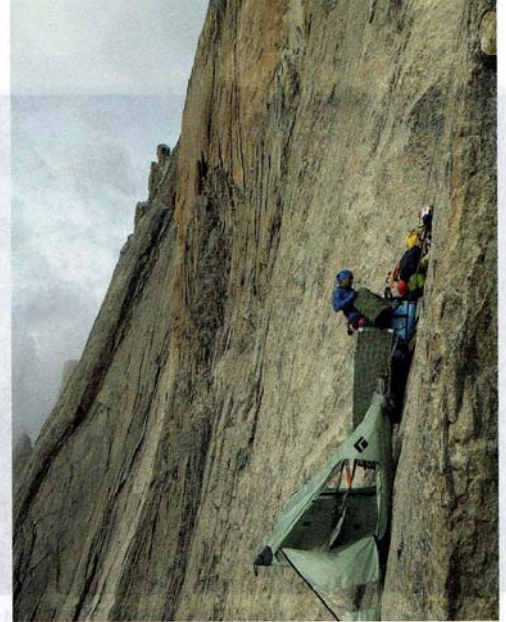
■ **ピッチ概要**

- 1 P目 A 1+後 5.11 b 40m 濡れた逆層ハングからスラブをトラバース。
- 2 P目 5.10 a 60m 左に水平トラバース後、少々脆いフェースを右上。
- 3 P目 5.10 b 55m 濡れたスラブ部分が悪い。
- 4 P目 C 1後 5.11 a 40m 雪田テラスからコーナー。小



ベアトリス山頂直下の岩稜

ベアトリス東壁、三日目のビバーク地



- ハングから先は泥が詰まっている。
- 5 P目 C 2後 5.12 a 20m 以後7 P目までは要掃除。被ったコーナーをレイバックとステミングで。
- 6 P目 C 2後 5.12 b 30m 前半はレイバック、後半は甘いジャミングの連続でコーナーをいく。
- 7 P目 C 2後 5.12 a 50m レイバックとフェースムーブで変化に富んだ長いクラックピッチ。
- 8 P目 5.10 d 15m フェースを回り込み濡れたコーナーに行く。
- 9 P目 5.12 b 30m 傾斜が一気に増す。ボルダーチックな序盤から苦しいレイバック。最後のマントルも厳しい。
- 10 P目 C 2後 5.13 a 30m 傾斜110度。クラックは途切れ途切れでフェースムーブ中心の核心。
- 11 P目 5.12 c 50m 被ったコーナークラックが50m続く。完登時は濡れていて非常に奮闘した。
- 12 P目 5.11 a 50m 中間部までは濡れていて気が抜けないコーナー。
- 13 P目 5.11 c 60m 完全に乾いて、ジャムのきく楽しいクラック。
- 14 P目 5.9 60m 快適なクライミングがつづく。
- 15 P目 5.10 a 50m 快適なクライミングがつづく。
- 16 P目 5.10 a 30m 快適なクライミングで雪田のあるテラスへ。
- 17 P目 5.9 55m (リッジ到達、壁終了) 傾斜はあるが容易なクライミングで稜線へ。
- 18 P目 5.9 20m 不安定な氷雪を避けながらクライミング。スラブが少々恐ろしい。
- 19 P目 5.10 c 45m 被った岩峰を避け、不安定な側壁をトラバースする。
- 20 P目 雪稜 70m (山頂)。

☆ **K7 West 南西稜初縦走「Sun Patch Spur」 ED+/2300 m+ / 5.11 c, A 2, 70°**

2017年8月5～10日 横山勝丘・長門敬明